

経営目標 教育目標	【学校経営目標】 めまぐるしい社会の変化に対応し、自らの進路を切り拓く力を育てるとともに、地域に感謝し、社会に貢献しようとする意欲を持った生徒を育てる教育活動の推進 【学校教育目標】 主体的に学び 挑戦し 社会に貢献できる生徒の育成	めざす 生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢・実現」に向けて主体的に学ぶ生徒 ・自ら考え、判断し、行動できる生徒 ・失敗を恐れずチャレンジし、自らの進路を切り拓く生徒 ・ふるさとを大切にし、社会に貢献できる生徒 ・神石高原中学校生徒の心が実践できる生徒
--------------	---	------------	---

評価計画				自己評価						学校関係者評価				
中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成の方策 (具体的な取組内容)	評価項目・指標	目標値	時期	達成値	評価	達成状況	改善方策	評価			コメント
											イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的な学習を実現し、学力の向上を図る	1	探究的な学習を全教科で単元(題材)以上展開する(年一回以上は各教科で校内研究授業を実施する校内研究授業又は、指導案作成を行う。)	全国学力学習状況調査・標準学力調査において、正答率80%以上の生徒割合	30%以上	中間	国100% 数46.7%	C	全国学力学習状況調査(9月本校実施)では、正答率80%以上の割合は、国語82%、数学14%であった。達成値(数学):14÷30×100=46.7	教科を越えて生徒の躰きや実態交流を継続する。他教科のよい点を参考にしながら、授業改善を進める。数学については、問題に当たる回数を増やす。多様な問題に当たること等が不足していたと分析している。 学力中位の生徒を上位へという目標設定であったが、当然、学力低位の生徒への指導もされていると思う。結果が不十分な教科について、複数指導体制がとれないものか。	○			
						最終	76%	C	標準学力調査(1月実施)では、正答率80%以上の割合(教科別全額年平均)は、国語43%、社会16%、数学12%、理科17%、英語29%であった。達成値:(43+16+12+17+29)÷5=22.8 22.8÷30×100=76					
	多様な機会を設定・推奨し、自己決定させることで生徒のチャレンジ精神を養う	2	各種検定試験、作文コンクール、海外研修等の受験推奨を継続的・計画的に行うことで、生徒の意欲を喚起する	コンクールや各種検定(英検・数検・漢検等)にチャレンジした生徒の割合(全員提出課題は除く)	80%以上	中間	67.3%	C	漢検・数検・英検のいずれかを受験した生徒数43名。(延べ56名=複数受験者13名)53.8% 達成値:53.8÷80=67.3	授業等において積極的に呼びかけを行い、学習意欲の喚起を進める。基礎基本の定着の実感により挑戦意欲に繋げたい。 生徒の意識調査等を行い、特に、一度も受検していない生徒の気持ちを把握して、状況に応じた声かけを行っていく。また、複数回挑戦している生徒の動機やきっかけをつかみ、今後の参考とする。	○			
						最終	70.4%	C	漢検・数検・英検のいずれかを受験した生徒数45名。(延べ82名=複数受験者37名)56.3% 達成値:56.3÷80=70.4					
豊かな心	地域に貢献できる生徒を育成する	2	地域の教材化をすすめるとともに、地域学習を取り入れる。また、各種ボランティア活動への参加を促す	地域のために何かをしたと思う生徒の割合 各種ボランティア活動への参加した生徒の割合	80%以上 50%以上	中間	100%	A	地域のことが好き84.8%。 地域のために何かをしたい81.0%。	総合的な学習の時間を中心とした地域学習の継続をする。 これまでの取り組みを見直し、生徒個々が地域の将来についての展望が持てるような学びの機会・活動を考えていく。(総合的な学習の時間の内容、行事づくり、地域参画)	○			
						最終	92%	B	地域のことが好き75.9%。 地域のために何かをしたい70.9%。 (75.9+70.9)÷2=73.4 達成値:73.4÷80×100=91.8					
	社会に貢献できる生徒を育成する	2	他者との違いを認め、共に歩む集団を育成する	行事を通した集団づくりとコミュニケーションスキル向上のトレーニングを実施する	自他認識にかかる意識調査の肯定的評価の生徒割合 各種行事における充実度の肯定的評価の生徒割合	90%以上	中間	89.2% 100%	B	自分にはよいところがある72.2%。他者に認められている64.1%。助けてくれる友達がいます93.7%。役割にやりがいを持ち、適した言動をとっています91.1%。(72.2+64.1+93.7+91.1)÷4=80.3 達成値:80.3÷90×100=89.2 行事後の充実度:心に残った99%。学級旗制作の印象99%。ソーラン節を大きく踊った93%。	修学旅行(2年生)、新入生体験授業、部活動体験会、生徒会選挙等行事を通して、自己の役割や他者のために何ができるか等を考えさせ、行動化を図る。また、ライフスキルプログラムを活用し、特に自己肯定感の醸成を意図した取組を行う。 コロナウイルス感染拡大防止対策に配慮した上での学校行事や生徒会活動を生徒と共に考え、計画、実行していく。行事を通した人間関係づくりを継続する。	○		将来、本町で活躍する人材を育成することも重要だが、例え町外に出たとしても何らかの形で貢献しようと考え「関係人口」を増やすためにも「地域のために何かをしたい」≠「地域に住む」ということを明確に示す必要がある。 「私のよいところ」を中学時代には表現できる子は少ないと思う。今は、できることは何でも経験して探していくべきだろう。 「自分にはよいところがある」70.9%は、妥当な数値だろう。それよりも「助けてくれる友達がいます」に注目してはどうか。そもそも2つの項目を合わせて90%以上という設定が不十分である。 今後、「よい自分だけを見せたい」「自分を好きになれない自分はダメなんだ」等と自分を責める生徒が出てこないか留意しておく必要がある。
							最終	90.8%	B	自分にはよいところがある70.9%。他者に認められている65.8%。助けてくれる友達がいます96.2%。役割にやりがいを持ち、適した言動をとっています89.9%。(70.9+65.8+96.2+89.9)÷4=80.7 達成値:80.7÷90×100=90.8				
健やかな体	しなやかでつよい心と体を育成する	3	健康維持増進を促す短期間のプロジェクトを企画し実践する	健康の維持増進に関わる項目における肯定的評価の生徒割合	90%以上	中間	83.7%	B	感染症予防を意識して生活している。94.5% 給食時、私語をせず静かに食事ができている。100% 人と密接になったり、密集したりすることなく行動できている。31.5% (94.5+100+31.5)÷3=75.3 達成値:75.3÷90=83.7	保健委員会の取組を中心に、冬季感染症予防について特に意識が低下している部分についての見直しを図り、実践につなぐ。 生徒会活動を中心に、全校朝会時や毎日の放送時に呼びかけを進めてきた。今後も、健康意識が高まるよう課題設定し、生徒会を中心に取組を進める。	○			
						最終	84.8%	B	感染症予防を意識して生活している。89.5% 給食時、私語をせず静かに食事ができている。98.7% 人と密接になったり、密集したりすることなく行動できている。40.8% (89.5+98.7+40.8)÷3=76.3 達成値:76.3÷90×100=84.8					
働き方	教職員のゆとりとやりがいを高める	4	働き方改革・業務改善により超過勤務時間を減少させる	超過勤務時間が月45時間未満(年間平均) 仕事に対する満足度(教職員意識の肯定的割合)	100%	中間	73.4%	C	超過勤務時間 上半期平均40時間。10人/15人66.7%仕事に誇りややりがいを感している。12人/15人80% 達成値:(66.7+80)÷2=73.4	業務内容の見直しを継続する。スクラップの断行と、校内環境の整理整頓を継続する。 業務内容の見直し、スクラップの断行、校内環境整備等を継続する。職場のコミュニケーション量や質の改善を進める。	○		業務の精選に限界がある中、さらなる働き方改革を進めるためには、いかに学校業務をシンプルにするかが重要である。また、働き方改革の推進には、地域や保護者の理解が鍵となるだろう。 現状では、限界が来ているように感じる。行事等の見直しを進めると共に、教職員の増員を望む。	
						最終	66.7%	C	超過勤務時間 1月末平均 43時間。7人/15人46.7% 仕事に誇りややりがいを感している。13人/15人86.7% 達成値:(46.7+86.7)÷2=66.7					

【自己評価 評価基準】
 A: 100% ≤ (目標達成)
 B: 80% ≤ (ほぼ達成) < 100%
 C: 60% ≤ (もう少し) < 80%
 D: (できていない) < 60%

【学校関係者評価】
 イ: 自己評価は適正である。
 ロ: 自己評価は適正でない。
 ハ: わからない。